チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	人口減少社会における公共交通の利活用の可能性について	八戸市
アイデア名（注１）（公開）	バス Live～バスとともに生きる～		

（注１）地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。
（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1．応募者情報

チーム名（公開）	バス Live	
チーム属性（公開）	○1. 市民によるチーム　◉2. 学生によるチーム　○3. 市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数（公開）	6 名	
代表者情報	氏名（公開）	寺井遼大
メンバー情報	氏名（公開）	高橋真菜、中山寿似也、林優萌 石橋歩、東野有華

（注意書き）※　必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1．応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2．アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3．公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示―非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

4．上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）

5．この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様でお願いします。

7．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

2．アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

私たちは、課題研究の授業で八戸市が抱える課題について考えた。その中でも、八戸市の公共交通機関の利用が少ないということに注目した。近年の八戸市では、人口減少や自家用車利用の増加によりバスの利用者数が減少してきていることを知った。さらに、バスの本数と、走るルートの種類が少なく、利用することが不便であることも課題としてあげた。また、観光客の増加によって、観光客の集客に焦点が置かれがちになってしまい、私たち市民のイベント離れに対する対策が練られていないことが分かった。

私たちは、イベント情報発信アプリに公共交通機関のバスが使いやすくなるような機能を追加しようと考えている。そのアプリの内容は大まかに分けると３つある。

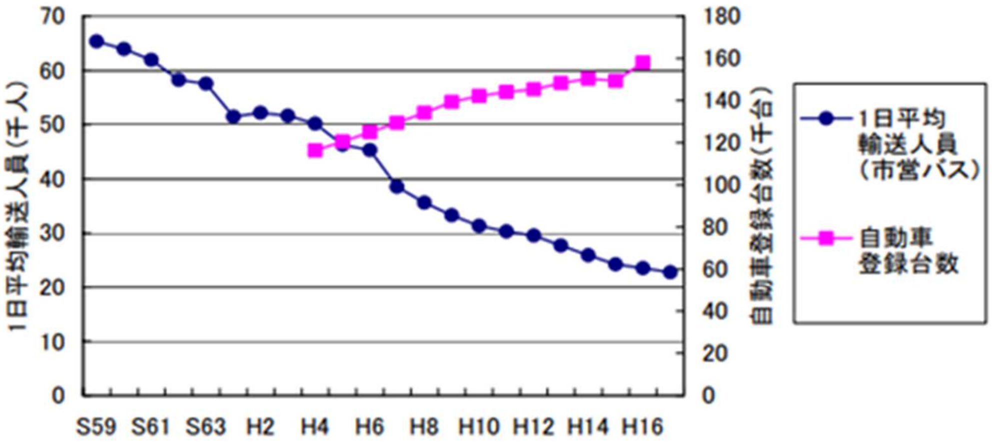
・市内の様々なイベントを季節ごとに分けイベントの情報を発信すること、公共施設の紹介をすること
・選挙の投票所の表示、2日間の天気の表示
・方面を４つに分け自分の行きたい方向をタップすると自分の近くのバス停を表示しそのバス停の時刻表を表示

このアプリを地元の人にも観光客の方にも使ってもらうことによって、移動手段に困ることが減り、さらにイベントへの参加意欲を持ってもらうことができる。また、バスの路線図や時刻表、バス停の位置の確認がしやすくなり、バスの利用推進効果にもつながると考える。さらに、私たちが考えた案をバス会社や市の交通機関の方々に採用していただくことで、バスの利用がしやすくなり、利用者数増加の効果も期待できる。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの**論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）**について、それを**サポートするデータ**（統計類の数値データやアンケート･インタビューなどの定性データ）**や証拠**（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

現在の八戸市のバスの利用者数が減少傾向にある。図 1 は、八戸市営バスの一日平均輸送人員と八戸市内の自動車登録台数の推移を表している。この図から、自動車の登録台数が増えるにつれて、利用者数が減少傾向にあることを読み取ることができる。[1]



八戸市営バスの一日平均輸送人員（乗合事業）と八戸市内の自動車登録台数

資料：八戸市統計書

注：自動車登録台数は、貨物用、乗用、軽自動車を含む。

図 1

図 2 は、免許の保有者数の推移を表している。年々、免許を取得する人が増加傾向にあることを読み取ることができる。この 2 つのことから、自動車の利用率の増加を背景に、市営バスの利用数が減ってきていることがわかる。[2]

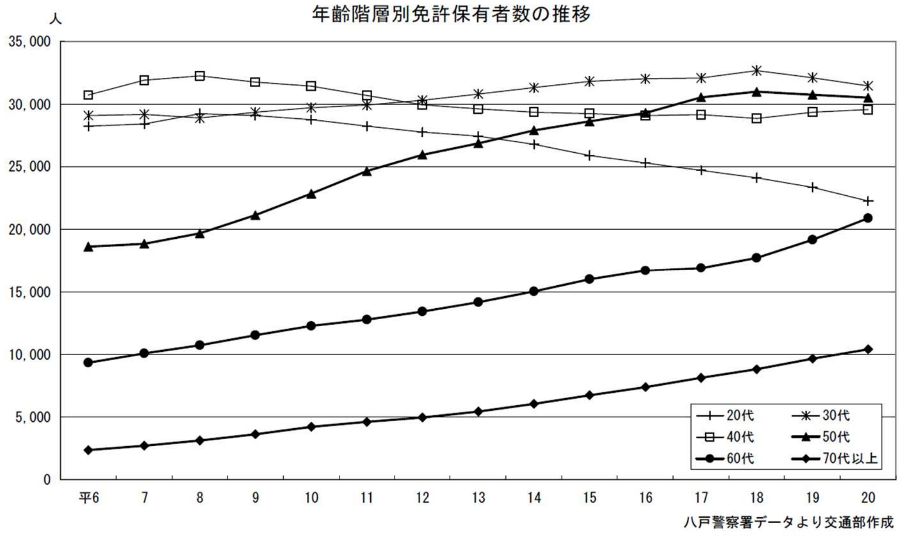
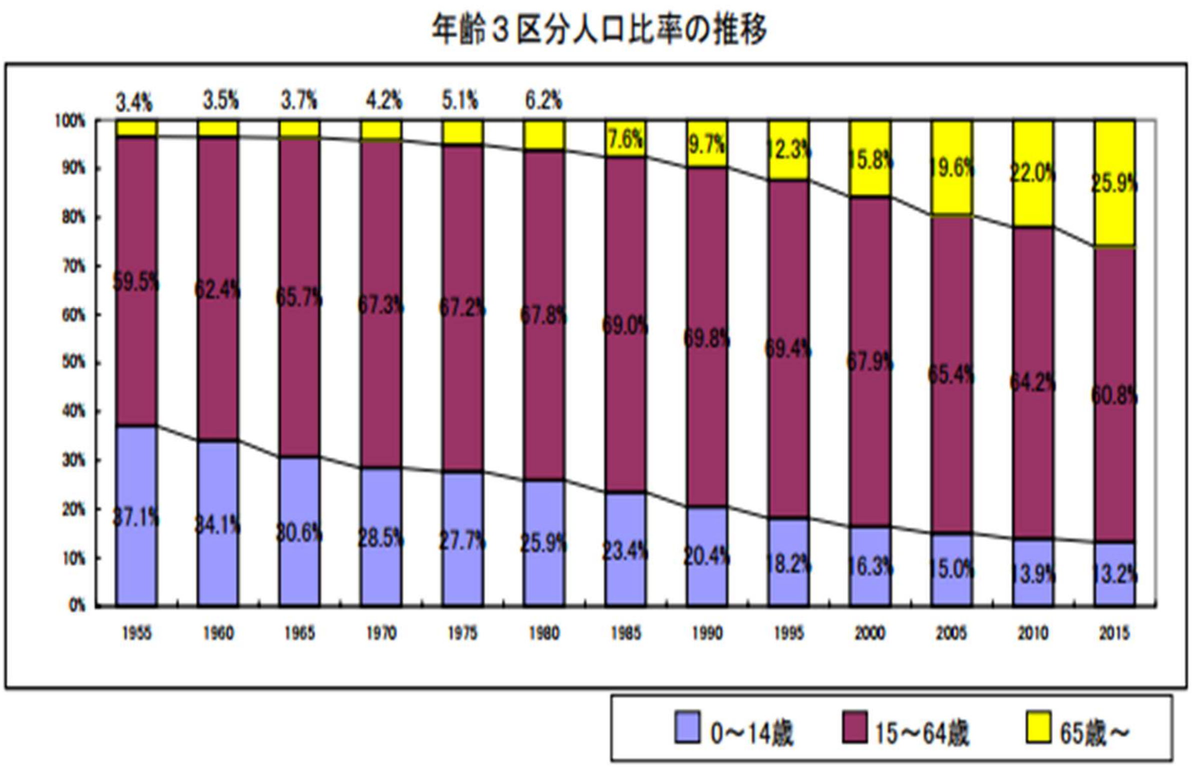


図 2

さらに問題視すべきことは、若者の免許保有者数が減少していることである。その背景には、進学や就職のために市内を離れる人が増加していることが考えられる。原因として、都市部の方が交通機関が充実しているということがあげられる。[3]



※2000年（平成12年）以前は、南郷区を含みません。
※2010年（平成22年）以降は、第５次八戸市総合計画の人口推計を参考にしています。

図 3

図 3 は、八戸市の区分別人口の割合について表している。この図から、65 歳以上の人口割合が増加し 0～14 歳の人口割合が減少する、少子高齢化が進んでいることを読み取ることができる。

参照元：
[図 1]八戸市公共交通再生プラン策定委員会（八戸市都市政策課）.「平成 18 年度　八戸市公共交通再生プラン　報告書」 p14 図 3.
〈http://www.lrt.co.jp/abe/hachinohe/05_%8D%C4%90%B6%83v%83%89%83%93.pdf〉
[図 2]八戸市交通部，「八戸市営バス事業経営健全化計画（平成 21 年度～平成 25 年度）」 p9 下図,
〈https://www.city.hachinohe.aomori.jp/bus/gaiyo/keiei_kenzen.pdf〉
[図 3]八戸市，八戸市の年代別人口比率の推移,
〈http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/12,19725,c,html/19725/1jinko.pdf〉

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

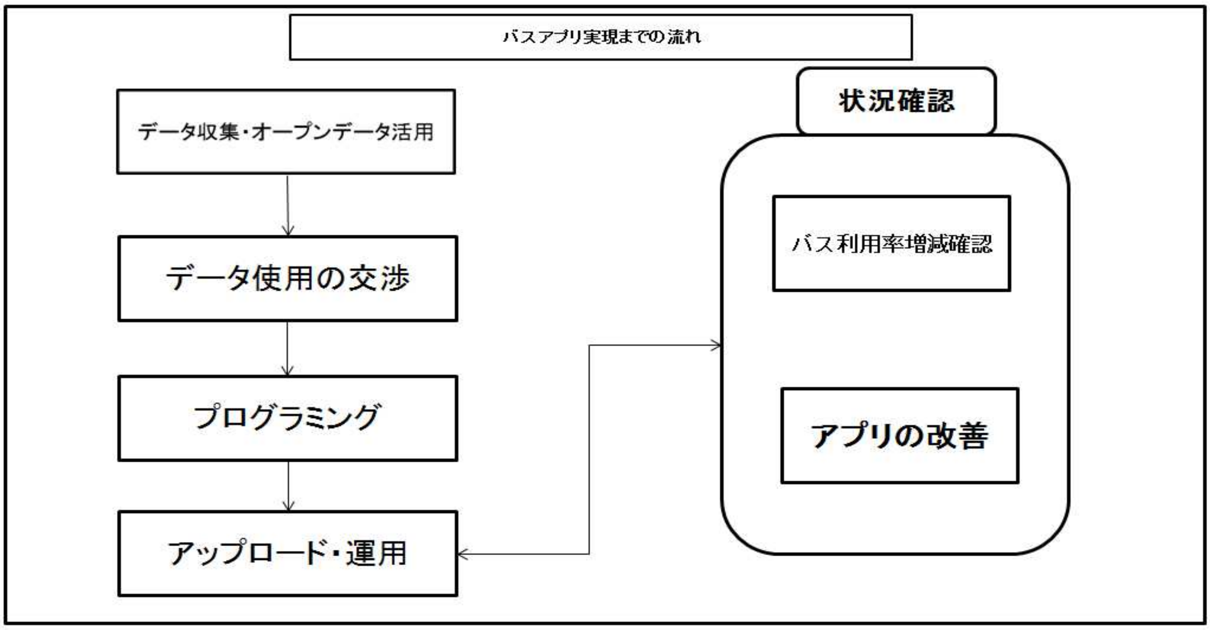
アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

アイデアの実現のためには、市内の自動車を利用する方・バスを利用する方双方の意見、八戸市のバス会社・八戸市の交通機関に関わる方々など、八戸市民の方々の協力が欠かせない。公開されているデータだけで判断し考えるのではなく、実際に利用している方のリアルな声を聞くことで、様々な視点からの意見を取り入れることができ、データ化されていなかった隠れた利用者の声を反映したりすることが可能になると考える。その意見をもとに、外部に交渉を始め、意見を反映するために活動していく。

> **投稿内容**
>
> 私は糠塚に住んでいます。
> 中心街経由方面へのルート、ニュータウン経由方面へのルート、等は二ツ屋周辺のバス停からあり、大変有難いです。
> しかし、市民病院方面(田向イオン)への直線的なルートは現在、一度中心街を経由するもので、かなりの遠回りになります。
> そこで、最近開通しました八戸環状線の八戸インター～中居林に繋がった道路を新しいバス路線として検討頂けませんでしょうか？
> 今後田向に健診センターも移転して来ることですし、利用者も見込まれるのではないでしょうか？
> 是非ご検討願います。

例えば、このような意見が出たとする。そのときは市営バス会社に、ルートの改善や本数の増加を提案してみる。すべての意見を反映することは不可能だが、少しでも可能性がある意見は、実際に交渉して改善を試みる。

交渉班が交渉や校外活動の準備を行っている間、プログラム作成班には、アプリ開発を進めてもらう。広報活動をして、データの提供をしてもらう準備が整ったとき、スムーズにそのデータをアプリに組み込むためにプログラムの準備を整えてもらう。時間の有効活用ができ、実際にアプリに反映されるまでの時間も短縮できる。同時に、より早く一般の方々に実際にアプリに触れてもらうことも可能になる。



アプリを開発し、公開した後さらなる機能の開発を行う。具体的には以下の 3 点だ。

① バス内に Wi-Fi の設置

乗客の向上に 1 番効果がある施策として、バス内に Wi-Fi の設置を行う。それにより、バスの位置情報をリアルタイムに把握可能にする。また、乗客は Wi-Fi を利用可能にする。また、Wi-Fi を設置すると、今はやりの SNS や YouTube が気軽に見やすくなり若者だけでなく幅広い年代での利用率向上が望められる。

② 八戸公共交通アテンダント「はちこ」への問い合わせ

八戸では八戸の公共交通の利便性を高めるために「はちこ」というアテンダントを設置している。「はちこ」というのは鉄道や路線バスなどの乗り継ぎ案内を行う公共交通アテンダントで、路線バスの利便性を高めるために、バス停や路線バス車内で、乗り継ぎ案内や乗降支援などを行っている。その「はちこ」とアプリを通してつながれる様にする。対面のガイドだけではなく、アプリを通して「はちこ」にガイドしてもらうことを可能にする。

③ 人工知能による問い合わせ対応

アプリの中にチャットボットを導入し、「はちこ」だけではなく自動応答で問い合わせに対して回答できるようにする。具体的には、「本八戸駅のバスの時刻表が見たい」とアプリに打ちこむと自動で本八戸駅のバスの時刻表が乗っている URL を表示するなど。